

# 第68回日本酪農研究会 神戸市にて開催

営業統括室 嶋田 和睦

日本酪農青年研究連盟（酪青研：山本隆委員長）主催の第68回日本酪農研究会が、45関係団体の後援・協賛のもと、11月15～17日の3日間、神戸ポートピアホテルにて全国から約320名の参加者を集めて開催されました。

本研究会の開催目的は、日頃の経営成果と実践活動の発表に併せ、分析検討・知識技術の交流を通し、山積する諸問題の解決を図りながら、国際競争に勝ち残る我が国酪農産業の未来を切り拓き、発展に寄与することです。

主催者挨拶された山本委員長は、「今年4月に発生した熊本地震においては、酪農乳業を含め大きな被害が発生した。また、8月から9月にかけては、北海道から九州・沖縄に至るまで台風の上陸が相次ぎ、記録的な大雨をもたらした。被害を受けられた皆様には、この場をお借りしてお見舞い申し上げます。ここ神戸の地は1995年阪神淡路大震災において大きな被害を受けた地域の一つだが、住民の皆様、関係者の皆様の不断の努力により、一步一步確実に復興を進められていることに敬意を表す。我が国の酪農はいま、TPP、FTA等により国際競争の大きな流れに身を投じようとしている。国内では指定団体制度や補給金制度といった生乳取引の根幹の部分にメスを入れる議論が始まっており、先行きが見通し難い状況となっている。我々一人ひとりが自らの経営の強みと弱み、そしてそれを取り巻く環境を広い視点で認識し、自らの責任と判断による経営の舵取りを、今までに増して迫られている。このような時に、酪青研盟友とのネットワーク、情報交換、全国の仲間の様々な取組みが厳しい判断を迫られたときの道しるべとなってくれるものと確信してい

る。ここ神戸はNHK朝のテレビ小説「べっぴんさん」の舞台となっている。この大会が、想いをこめた特別な品「べっぴん」な牛乳を生産する思いをさらに強くする大会となることを祈念する。」と述べました。

雪印メグミルクグループを代表して挨拶した西尾代表取締役社長は、「今年は日本列島が多くの自然災害に見舞われた年であった。熊本地震や鳥取での地震、また、北海道から九州・沖縄に至るまで相次ぐ台風の上陸で、酪農経営も甚大な被害を受けた。被害を受けられた皆様にはこの場をお借りしてお見舞い申し上げます。雪印メグミルクグループは企業理念の一つに酪農生産への貢献を掲げている。国内酪農に軸足を置き、安全・安心で、且つ、乳（ミルク）にこだわった、付加価値のある商品を消費者の皆様にお届けすること、また、乳製品の需要を拡大することにより、国内酪農の発展に貢献していきたい。このことは酪農乳業をめぐる情勢がいかなるステージをむかえようと変わらない。これからも「乳」という大切な「資源」から生まれる、素晴らしい日本の牛乳乳製品を、安定的に消費者にお届けするため、皆様と連携して参りたい。」と述べました。

研究会では、全国から選抜された酪農家7名による酪農経営発表と5名の意見事例発表が行われました。

経営発表の中から「家族・地域と共存する経営をめざして」と題して発表した北海道協議会幌延地方連盟の中嶋仁志さんが最優秀賞（黒澤賞）・農林水産大臣賞に輝きました。中嶋さんは、大学卒業後、北海道職員として10年間の勤務を経て、平成8年にUターン就農。保育士である奥様のキャリアを尊重し、省力化と経営資源の効率化を目指して経営改善に努めてきました。



・山本委員長の開会挨拶



・開会式の様子



・雪印種苗展示ブース



・当社赤石社長より雪印種苗賞の授与



・黒澤賞を受賞した中嶋さん(右)

生産性・収益性・効率性・安全性の技術指標はいずれも良好な成績を実現し、最も完成度の高い経営であることが評価されました。それぞれのおかれた経営環境の中で経営資源の最適化と高度化を目指し地域の仲間とともに経営改善に努力されており、出席された酪農家や関係者の皆様にとって、大変有意義な経営発表となりました。

意見事例発表では、ジェラートショップ展開による6次産業化を目指す方、酪農・畑作・受精師という3足のわらじで地域畜産を

支える方等、次世代を担う後継者の方々の思いの詰まった発表が印象に残りました。

発表後の講演会では、「畜産科生徒の取組と畜産への夢」と題して、文部科学省指定農業経営者育成農業高等学校兵庫県立播磨農業高等学校の生徒の皆さんより講演していただきました。ET技術を取り入れた乳牛改良、鶏、ホエー豚の取組み、非農家からの新規就農について等、多岐に渡る話題を深く掘り下げた内容であり、若さと活気溢れる発表に会場からは大きな拍手が送られました。

本大会は、厳しい情勢下での酪農経営のあり方を発表事例に学ぶと共に、全国の参加者との貴重な情報交換の機会として大変有意義な大会となりました。次回大会は北海道開催となり、関係する皆様の一層のご参加を期待申し上げます。尚、詳しいお問合せは、最寄りの弊社各営業所までお寄せください。



・酪農経営発表された6名の皆様



・意見事例発表された5名の皆様



・兵庫県立播磨農業高等学校の講演